

新農薬実用化試験 成績概評 (抜粋)

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (調査項目)	実施機関	圃場	発生状況	処 理 条 件			対照薬剤名(処理条件)	効 果				
						濃度・量	処理法	回数		処理年月日(時期) (判定した調査時期)	対 対照	対無 処理	判定	薬害
2017	稲(つがるロマン) は種:4/17 移植:5/21	イネドロオウムシ (被害度、虫数(L,P))	青森植	本田	少 (放虫)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/21(移植当日) (移植38、45日後)	対照A剤 50g/箱 移植3日前	B	A	A	—
2017	稲(ひとめぼれ) は種:4/1 移植:5/5	イネドロオウムシ (虫数(L,P))	宮城植	本田	少 (放虫)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/5(移植当日) (移植49、55日後)	対照G剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	—
2018	稲(コシヒカリ) は種:4/6 移植:5/8	イネドロオウムシ (密度指数(L,P))	石川植	本田	中~多	50g/箱	育苗箱施用	1	5/8(移植当日) (移植34日後)	対照B剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	—
2018	稲(キヌヒカリ) は種:5/27 移植:6/18	ツマグロヨコバイ (密度指数(A,L))	兵庫植	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	6/18(移植当日) (移植45、60日後)	対照H剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	—
2018	稲(にこまる) は種:5/29 移植:6/22	ツマグロヨコバイ (密度指数(A,L))	日植防岡山	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	6/22(移植当日) (移植43日後)	対照I剤 50g/箱 移植当日	C	B	B	—
2018	稲(ヒノヒカリ) は種:5/25 移植:6/14	ツマグロヨコバイ (密度指数(A,L))	鹿児島植	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	6/14(移植当日) (移植41、48日後)	対照J剤 50g/箱 移植前日	A	A	A	—
2018	稲(ひとめぼれ) は種:4/7 移植:5/5	イネヒメハモグリバエ (防除値(被害株率))	宮城植	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/5(移植当日) (移植24日後)	対照B剤 50g/箱 移植当日	A	B	B	—
2018	稲(コシヒカリ) は種:4/10 移植:5/1	イネヒメハモグリバエ (対無処理比(L,P))	島根	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/1(移植当日) (移植23日後)	対照K剤 50g/箱 移植当日	D	C	C	—
2017	稲(つがるロマン) は種:4/17 移植:5/21	イネミズゾウムシ (対無処理(L,P))	青森植	本田	多	50g/箱	育苗箱施用	1	5/21(移植当日) (移植47日後)	対照A剤 50g/箱 移植3日前	B	A	A	—
2017	稲(どんぴしゃ) は種:4/21 移植:5/15	イネミズゾウムシ (対無処理比(L,P))	岩手(病虫)	本田	中(放虫)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/15(移植当日) (移植59日後)	対照L剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	—
2017	稲(ひとめぼれ) は種:4/16 移植:5/14	イネミズゾウムシ (密度指数(L,P))	宮城植	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/14(移植当日) (移植48日後)	対照G剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	—
2018	稲(ゆめみづほ) は種:4/6 移植:5/6	ニカメイチュウ (葉鞘変色茎数)	石川植	本田	少(放虫)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/6(移植当日) (移植53日後)	対照B剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	—
2019	稲(ゆめみづほ) は種:4/5 移植:5/6	ニカメイチュウ (葉鞘変色茎数)	石川植	本田	中(放虫)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/6(移植当日) (移植63日後)	対照B剤 50g/箱 移植当日	C	B	B	—
2019	稲(ひめの凜) は種:5/10 移植:6/6	ニカメイチュウ (被害茎数)	愛媛	本田	少(放虫)	50g/箱	育苗箱施用	1	6/6(移植当日) (移植64日後)	対照C剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	—
2017	稲(ひとめぼれ) は種:4/18 移植:5/11 出穂:8/3	いもち病 (病斑数・被害度)	宮城古川	本田	葉:少 穂:極少 (接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/11(移植当日) (葉7/31、穂8/31)	対照B剤 50g/箱 移植当日	葉:B 穂:C	葉:B 穂:C	葉:B 穂:C	—
2017	稲(ナツミノリ) は種:4/11 移植:5/16 出穂:8/3	いもち病 (病斑数・被害度)	秋田	本田	葉:少 穂:少 (接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/16(移植当日) (葉7/26、穂9/4)	対照B剤 50g/箱 移植当日	葉:B 穂:C	葉:A 穂:C	葉:B 穂:C	—
2017	稲(はえぬぎ) は種:4/14 移植:5/9 出穂:8/7	いもち病 (病斑数)	山形水田	本田	葉:少 穂:極少 (接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/9(移植当日) (葉7/27、穂8/31)	対照B剤 50g/箱 移植当日	葉:D 穂:C	葉:D 穂:C	葉:D 穂:C	—
2017	稲(にこまる) は種:5/28 移植:6/21 出穂:9/2	いもち病 (株当たり病斑数 発病率、被害度)	日植防岡山	本田	葉:多 穂:少 (接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	6/21(移植当日) (葉7/26、穂9/26)	対照D剤 50g/箱 移植当日	葉:B 穂:C	葉:A 穂:B	葉:A 穂:B	—
2017	稲(コシヒカリ) は種:4/18 移植:5/16 出穂:8/6	穂枯れ (こま葉枯病菌 発病率、発病度)	日植防茨城	本田	多	50g/箱	育苗箱施用	1	5/16(移植当日) (9/12)	対照M剤 50g/箱 移植当日	B	C	C	—
2017	稲(キヌヒカリ) は種:5/12 移植:6/5 出穂:8/8	穂枯れ (こま葉枯病菌 発病率、発病度)	兵庫	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	6/5(移植当日) (9/8)	対照F剤 50g/箱 移植当日	A	B	B	—
2017	稲(コシヒカリ) は種:4/11 移植:5/8 出穂:7/26	もみ枯細菌病 (発病度)	日植防茨城	本田	中 (接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/8(移植当日) (8/23、8/24)	対照E剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	—
2017	稲(日本晴) は種:5/19 移植:6/8 出穂:8/15	もみ枯細菌病 (発病度)	山口(病虫)	本田	基 (接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	6/8(移植当日) (9/1)	対照N剤 50g/箱 移植当日	B	C	C	—
2017	稲(ミルククイーン) は種:5/6 移植:5/26 出穂:8/7	もみ枯細菌病 (発病率、発病度)	高知大(病)	本田	中 (接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/26(移植当日) (8/21)	対照F剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	—
2017	稲(ゆめみづほ) は種:4/4 移植:5/1 出穂:7/17	白葉枯病 (発病度)	石川	本田	中 (接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/1(移植当日) (8/17)	対照O剤 50g/箱 移植当日	A	A	A	—
2017	稲(ヒノヒカリ) は種:5/17 移植:6/14 出穂:8/25頃	白葉枯病 (発病率、発病度)	京都府大(病)	本田	多~基 (接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	6/14(移植当日) (9/14)	対照P剤 50g/箱 は種時覆土前	B	B	B	—
2017	稲(ヒノヒカリ) は種:4/24 移植:6/2 出穂:8/20	白葉枯病 (発病率、発病度)	日植防高知	本田	少 (接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	6/2(移植当日) (8/28、9/11)	対照F剤 50g/箱 移植当日	B	A	B	—
2017	稲(ヒノヒカリ) は種:5/15 移植:6/14 出穂始め:8/24	内穎褐変病 (発病率、発病度)	奈良植	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	6/14(移植当日) (9/4)	対照F剤 50g/箱 移植当日	A	B	B	—
2017	稲(にこまる) は種:5/28 移植:6/22 出穂:9/2	内穎褐変病 (発病率、発病度)	日植防岡山	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	6/22(移植当日) (9/21)	対照F剤 50g/箱 移植当日	C	C	C	—
2017	稲(キヌヒカリ) は種:5/22 移植:6/12 出穂:8/14	内穎褐変病 (発病率、発病度)	埼玉	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	6/12(移植当日) (9/4)	対照Q剤 50g/箱 移植当日	B	C	C	—



バイエル クロップサイエンス株式会社
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262
<https://cropscience.bayer.jp/>
お客様相談室 ☎0120-575-078
9:00~12:00,13:00~17:00 土日祝日および会社休日を除く

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

L3-2020 22.01.NY

技術資料

いもち病・初期害虫の防除が、

水稻栽培の

コアだ!



ルーチン®
コア
箱粒剤

防除必須な
病害虫に特化。
効果と低コストを実現。
これからの主役はコアだ!



慣行播種
箱当り
50g

高密度播種
箱当り:50~100g
(1kg/10aまで)



ルーチン®コア箱粒剤の特長

- ネオニコチノイド系殺虫剤のチアクロプリドと抵抗性誘導型殺菌剤のインチャニルとの混合剤です。
- 優れた浸透移行性と長い残効性により、いもち病やイネミスゾウムシに高い効果を発揮するほか、ニカメイチュウにも有効です。
- インチャニルは抵抗性誘導型殺菌剤のため耐性菌発達のリスクが小さく、白葉枯病などの細菌性病害にも有効です。
- 移植3日前から移植当日まで使用可能です。
- 高密度播種の場合、10a当りの育苗箱枚数にあわせて育苗箱当りの使用量を50～100g/箱で処理でき、安定した防除効果が期待できます。 ※ただし、10a当りの処理量は最大1kg/10aです。

有効成分の名称および物理的・化学的性状等

有効成分名	インチャニル	チアクロプリド
化学名	3,4-ジクロロ-2-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキサニリド	3-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-1,3-チアゾリジン-2-イリデンシアミド
構造式		
分子量	298.15	252.8
融点	193.7～195.1℃	136℃
水溶解度(20℃)	0.5mg/ℓ	0.185g/ℓ
蒸気圧(25℃)	2.36×10 ⁻⁷ Pa	8×10 ⁻¹⁰ Pa
オクタノール/水分配係数(log Pow)	2.96 (25℃)	1.26 (20℃)
RACコード	殺菌剤分類 PG	殺虫剤分類 4A

- 商 品 名：ルーチン®コア箱粒剤
- 登 録 番 号：農林水産省登録 第24158号
- 試 験 名：BCM-171粒剤
- 種 類 名：チアクロプリド・インチャニル粒剤
- 有効成分および含量：チアクロプリド……………1.45%
インチャニル……………2.0%
- 性 状：類白色細粒
- 有 効 年 限：4年

安全性(製剤)

人畜毒性：普通物 (毒劇物に該当しないものを指していう通称)

- 急性経口毒性 (ラット♀) LD₅₀>2,000mg/kg
- 急性経皮毒性 (ラット♀) LD₅₀>2,000mg/kg
- 皮膚刺激性 (ウサギ) 刺激性なし
- 眼刺激性 (ウサギ) 刺激性なし
- 皮膚感作性 (モルモット) 感作性なし(ただしインチャニルに感作性あり)

水産動植物への影響

- 魚類急性毒性(コイ) LC₅₀(96時間)>1,000mg/ℓ
 - ミジンコ類急性遊泳阻害(オオミジンコ) EC₅₀(48時間)>1,000mg/ℓ
 - ユスリカ幼虫急性遊泳阻害(ドブユスリカ) EC₅₀(48時間)0.74mg/ℓ*
 - 藻類生長阻害(緑藻) ErC₅₀(0～72時間)>1,000mg/ℓ
- *原体の毒性値に基づく換算値

適用病害虫および使用方法

2022年1月現在の登録内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用回数*	使用方法
稲 (箱育苗)	イネドロオウムシ イネヒメハモグリバエ ツマグロヨコバイ	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植3日前 ～ 移植当日	本剤:1回 チアクロプリド:1回	育苗箱の上から均一に散布する
	イネミスゾウムシ、ニカメイチュウ いもち病、白葉枯病、内類褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病	高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50～100g)		インチャニル:3回 (移植時までの処理は1回、本田では2回)	

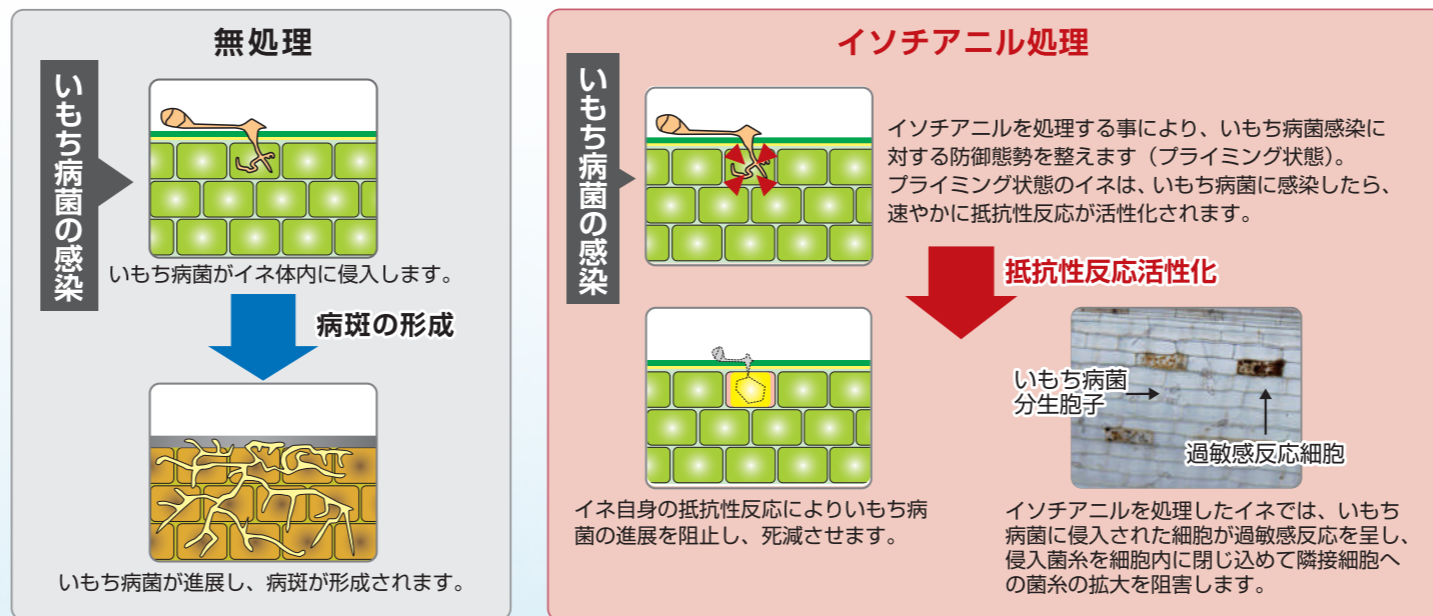
*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農業の総使用回数の制限を示します。

注意事項

- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整して下さい。
 - 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
 - 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に、移植後田面が露出しないように注意して下さい。
 - いぐさ栽培予定水田では使用しないで下さい。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないで下さい。
 - さく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布して下さい。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさせて下さい。
 - 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
 - 誤食などのないよう注意して下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の指示を受けて下さい。
 - 散布の際は農業用マスク、手袋、長スボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして下さい。
 - かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。
 - 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
 - 散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。
 - 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管して下さい。
- ★田植同時施肥機で使用する場合は、農機販売会社に本剤の使用に関して確認をして下さい。また、散布量の調整を実施したうえで使用して下さい。

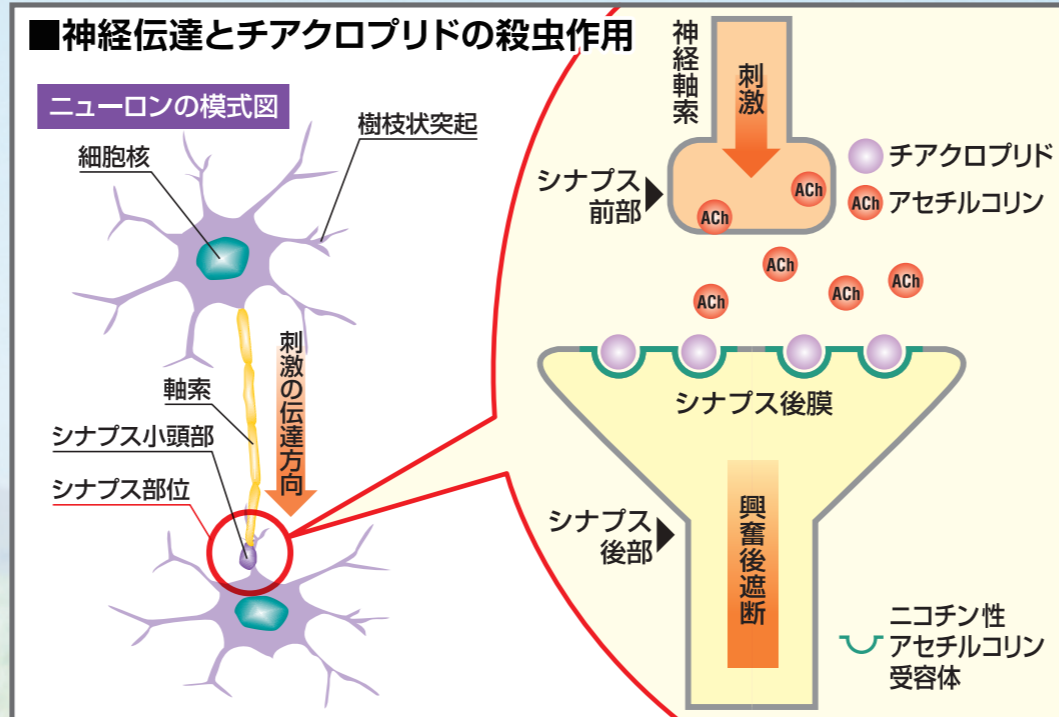
インチャニルの作用機構

インチャニルは、イネ自身が本来持っている病害抵抗性機能を増強させる植物病害抵抗性誘導型殺菌剤です。インチャニルは処理後速やかに根部より吸収され、イネ体内に移行し、さまざまな病害抵抗性関連の防御反応をイネ体内に誘導(全身獲得抵抗性)します。この時点からイネは、病原菌の侵入に備える自己防御態勢(プライミング状態)を整えます。このようにインチャニルは、イネが先天的に備えている自己防御機構を増強させ、いもち病などからイネを守ります。



チアクロプリドの作用機構

チアクロプリドは口や皮膚から昆虫体内に容易に取り込まれシナプス後膜(ニコチン性アセチルコリン受容体)に作用し、興奮伝達機構を継続的に攪乱、ブロックすることで昆虫の活動能力を低下させ死に至らしめます。速効的な殺虫活性を示しますが、致死濃度以下でも全身的な弛緩や運動能力の低下を引き起こし、摂食、吸汁活動や歩行、飛翔行動を妨げ、交尾、産卵などの行動を抑え、その効果は長期間続きます。



チアクロプリドは、シナプス後膜の本来アセチルコリンが結合すべき場所(ニコチン性アセチルコリン受容体)に作用して正常な情報伝達を阻害します。

新農業実用化試験成績(抜粋)

